

羽はたいたあとも



R18

羽
ば
た
い
た
後
も

天に羽ばたくその日まで
Hans side
+
after

※捏造多数 ご注意下さい※





死にたい
死んでしまったね……



私のせいだ



お前の
せいじゃねえ



そう思って
いたんだ



最終的な
判断を下したのは
エルヴィンだ

巨人捕獲作戦は
調査兵団の
総意だろうが

——そうだね
でも私のせいだよ

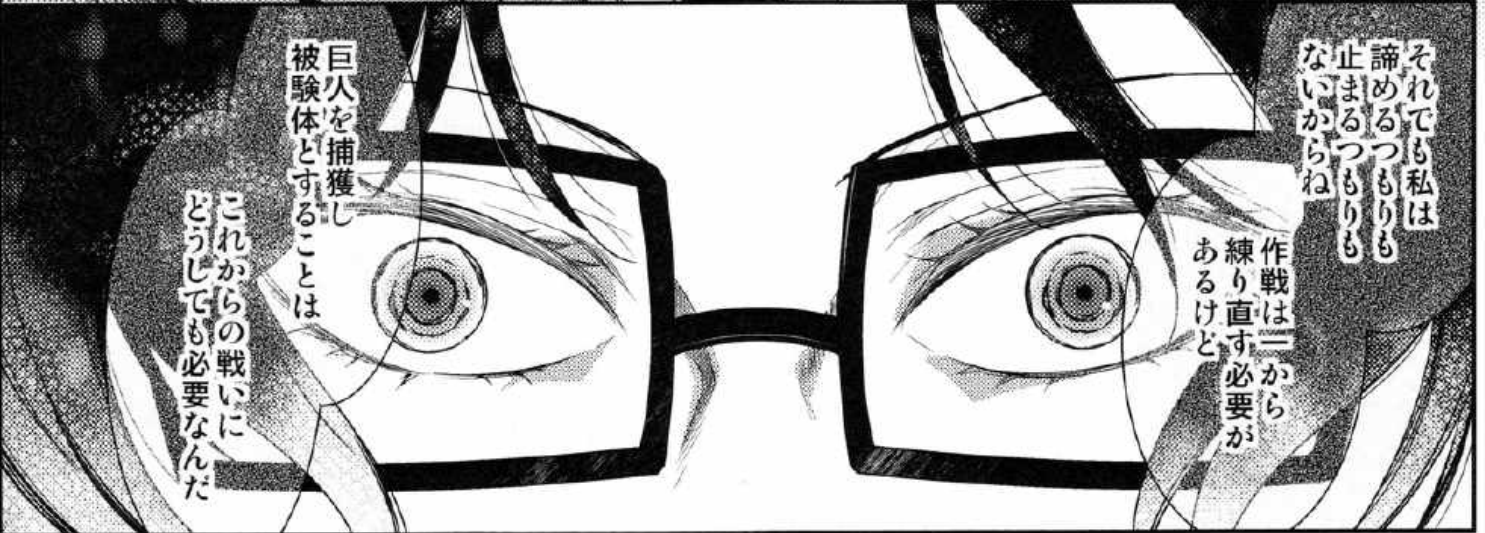
ハンジ



忘れるべきじゃない

私の立てた作戦で仲間が大勢死んだ

しかも作戦は失敗巨人捕獲はできなかった



それでも私は諦めるつもりも止まるつもりもないからね

作戦は二から練り直す必要があるけど

巨人を捕獲し被験体とすることは

これからの戦いにどうじでも必要なんだ



ここで止めたらあいつらはただが無駄死にだらうが

そう…だね

—ん？もしかしてなぐさめてくれてるのかい？



案外君は優しいよねリヴァイ

出会った時から

ああ？



——ちっ
笑うな

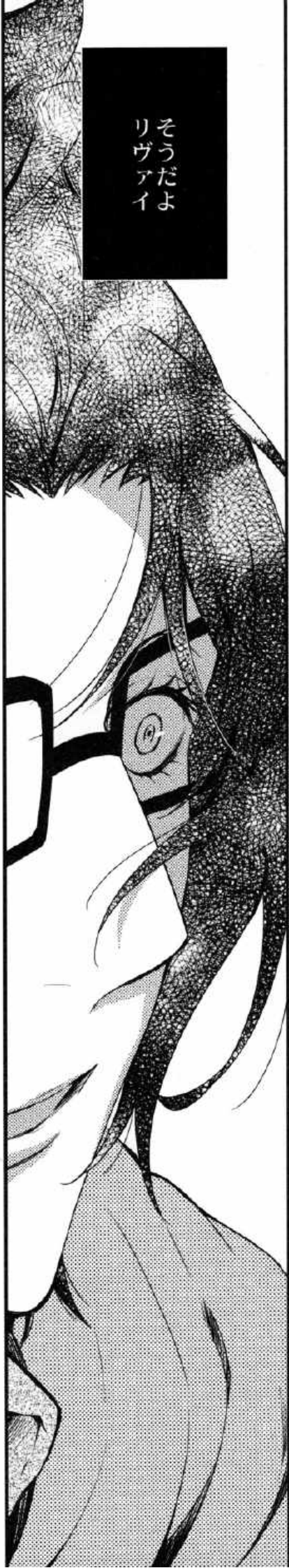
相変わらず
いかれた奴だ



でなきや
こないかれた
作戦立てねえ
だろが

ははは
そうかな

まあ
——
そうだね



そうだよ
リヴァイ

君と出会った
あの頃より
ずっと——

私は
おかしくなっているんだ——

数年前

はっ!!!

あははは
ははは

おっかしい

笑いが
止まれないよ
もうあはは

男ってほんと
くだらないことに
こだわってさ

紅茶でも
ハーブティーでも
どっちでも
いいじゃないか

紅茶派

ハーブティー派

それで
にらみ合うとか
おっかしいよねえ

ははは

いいかげんに
しなよ
ハンジ

前にももめてる
奴らの間に
割って入って
かき回して

あげく
殴られて
鼻折られたの
忘れたの？

でも結果的に
丸く収まったし

私には土下座
してきてさ
あれちよっと
おもしろかったよね

ハンジ

やめろって
言ってるの

大丈夫だったしや
ないか

だって
ミケが相手だし
さ

もう一人は
地下街出身の
ゴロツキよ？

いろいろ
噂だって
あるし

噂：ねえ

まあ
大丈夫かなって
思ったし



ハンジ
あんたまさか

誘ったの？



え？

あなたは
憶測で
ものを言ったり
しない

あいつについて
「煽つても大丈夫」と
思うだけの情報が
あった

でしよう？



いや

はは
そんなまさか

じゃあ前回の
壁外調査の後



誰と寝たの？





し
—
ようがないじや
ないか

みんな
断るし



そろそろ
噂になっても
おかしくないし



まあ
無理ないけどね



私と寝ると
死ぬってさ—





誰でもいいと
言っても

みんなが
あんたの誘いを
断るのは…

相手が死んだら
あんたが泣くのを
みんな知ってる
からよ





はは…



みんな
優しいな

それでも
私は



どうしても
誰かに継りたくて



弱くて



呆れるほど
弱くて…

それでも
逃げることも
考えられない



みんな

優しいよね

共に未来を
語り合った仲間を
裏切ることなんて
できない



いつかみんなが
待つ



死者の列に
加わる日まで――



ん…なんでも
ないよ

なに?
黙り込んで

え…あ…



—ジ
ハンジ!!

はっ



—で
どうだったの?

さっきから
どうもさ、

なに…が?



ゴロツキ君の
テクの程は



どナバとナ
ナバとナ

ナナバの
そういうとこ
好きだなー

そう?
ありがと

なんでナナバ
生えてないの?

……



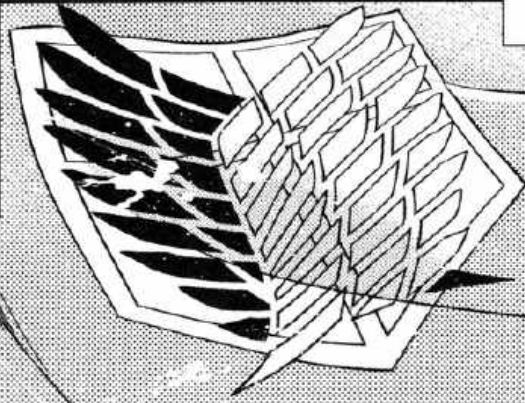
その日が来るまで——



数日前

初めて目にした
彼の姿は

まるで本当に
翼が生えて
いるようだった



羨望——



すごい
……でも



エルヴィンが
執着するわけだ



はは

なるほど
強い

絶望

いくら強くても
彼ひとりでの戦況が
変わるわけじゃない……

変わらない

——って

ええ？
あの新人に？
聞いたのかよそれ

お勧め教えて
くれるところか
すんげー睨まれてよ

慌てて
俺のお勧めのところ
教えるって言ったら
断られた

だってよお
地下街の娼館
興味ないか？

ええ？
興味ないのか？

ありえねーだろ
どーすんだよ

まさか
男の方が
いいとか？

ははは

勃たねえのかも
しれないぜ？

パン



私が知りたいのは真実



噂好きなのって
女だけじゃないんだ

くだらない
根拠のない
憶測

まあ彼が
気になるのは
わかるけど

異例の入団
強さ



ヤ

ヤ

カリヤリ

バ
サッ



カッ
カッ

カッ
カッ



長いな…

何を書いて
いるんだろ



やあ
こんな夜更けに
資料室に
お籠りかい

報告書？

助けは
いる？

——いや
もう終わる

過去の報告書を
まとめた本

たくさん
の書き損じ

——なら
このあと暇だね

私の部屋に
来ないかい？

ああ
もちろん
そういう意味
だからね

変な誤解だと
誤解しないで
——えっと

リヴァイ……君



報告書を
めんどろがって
新兵に書かせる奴も
多いのに

——
意外

どうする？

そうじゃあ
リヴァイ

リヴァイでいい

私は別に
誰でもいいんだ

あたたためて
くれるなら

来るかい？

でも君のこと

可愛いなって

てめえの部屋に
案内しろ

そう思ったから

おいで

—ああ
こっちだよ

ふふ

おいで



ん…

やっばり
あたたかい



ん…

男って
基礎体温
高い

固いけど

ああでも
すごい
筋肉…

は…



はは

本当は
一緒に眠って
くれる
だけでいいんだけど

でもそういうわけには
いかないだろうから

好きなだけ
弄りまわせばいい

あっ

私の中を
かき回せばいい

あ…

ほろり

気持ちいいのも
痛いのも
嫌いじゃない

ああっ!!!

少しだけ
忘れていられるから

あたたかさが
失われていく
あの感覚を――





ああつ

熱くて



んっ

熱い

冷たい

あ




んっ

んっ

っ

あ!!!



壁の外に
行くまでの間

忘れられるから




どうなんだ

……駄目かな

血が流れすぎた

体温が
どんどん
下がってる



冷たい

もう脈が……ああ



冷たく
なっていく



あたたか
かったのに



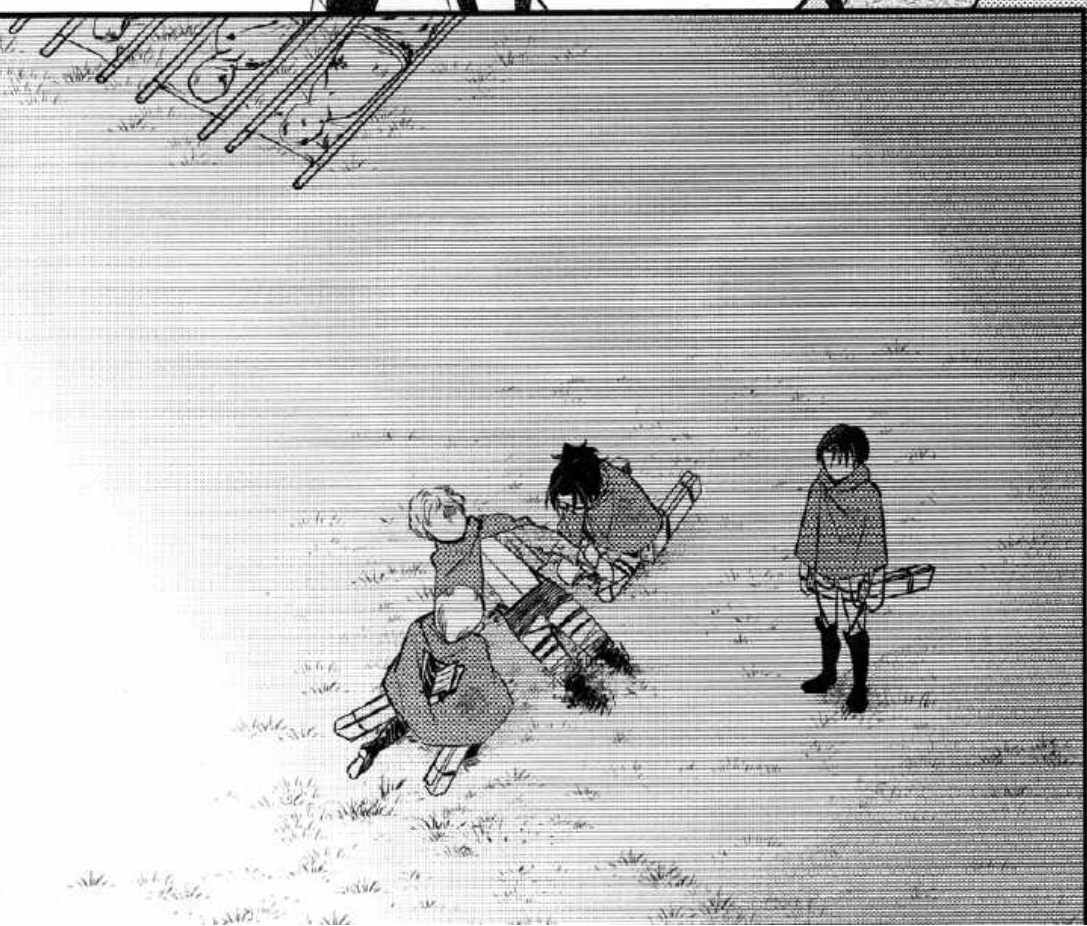
あたたか
かったのに



冷たく…



冷たくなつた



女だから
男とは脳の構造が
違うから

男のように
感情を理性で
押さえ込めないから

リヴァイのように
できないから



無様に
泣いて

泣き叫んで



お前の話

なんとなく
解る気がする—

なに？
どういうこと？

お前

目が恐ええぞ

脳の構造が
違うと

自ら認識
できていざっ

目を見れば
仲間の死を
悼んでいるのは
わかる—

教えてよ

でも
それだけじゃ
ないの？

リヴァイ

頭の中にいる
もう一人の俺が

後ろから
にらんでる
気がするだけだ

もう一人は
泣いているのかい？

いや
白けたツラで
ただ俺を
見てやがる

!!!

君は
常に自らを
俯瞰して

客観視して……？



どんな状況も
彼の行動を
妨げない

それは
兵士として――

すごいね
リヴァイ

君は
完璧だ



あ？

ずっと
そのまま
いてよ



ねえ

壁の中に
帰ったら
私の部屋に
おいでよ

私がそう
ありたかった
姿――

君がいい

君のアレは
熱くて
とても良かったよ

君の熱さを
感じたい

ふふ…

ははは

ねえリヴァイ

人は死ぬと
どうしてあんなに
冷たくなつて
しまうんだろうね



私の体はまだ
熱を帯びている？

君が
君の体で
確かめてよ

……殺さないと

もっと

巨人を

殺して

私の体が
冷たくなる前に

殺して



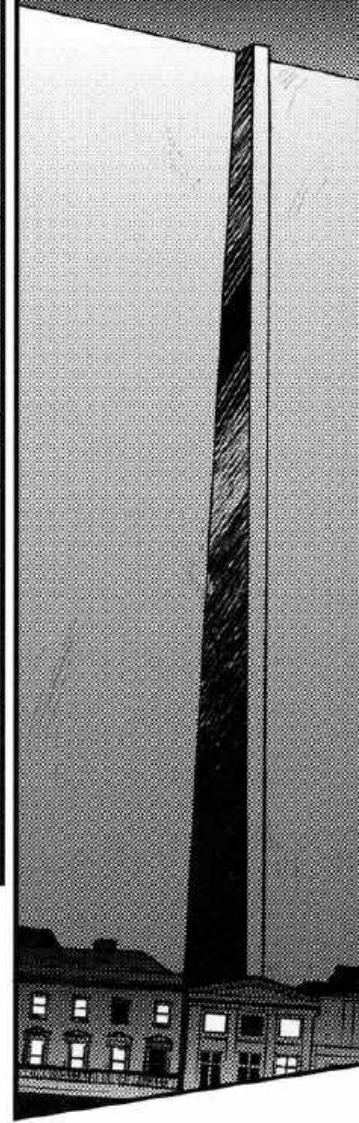
ふっ...



ん...

リヴァイは
来てくれる
だろうか

来てほしい



あ...

来なければ
諦められる



ん...

でも
来ないでほしい

リッ

あッ

リッ

誰でもいいと
逃げていられる



でも私は
君が

君が…



カキカキ



君が





リヴァイがいい



う…

あ…



ね…私
なにか
しょうか？

くわえるの
けっこう
上手だよ

黙ってろ



ん…

女にされるのは
好きじゃねえって
言っただろうが

警戒心
強いのかな

育ちの
せい？

それとも
寝られれば
誰でもいい？

——でも

ん…あっ!!

リヴァイ

君はけっこう
優しいよね

あ？

頭のおかしい女の
様子

見に来て
くれたんだろ？



!!

んあっっ!!!

ヒィヒィ

ヒィ
ヒィ
ヒィ



したいって
言ったのは
てめえだろうが

あ

はは…

そうだね……

ん…

ズ
ツ
ツ



ん…

あ…
リヴァイ



そうだね

それだけで



君のは
熱くて…



すごく
55…4



ん…

ああ



案外
寝顔
かわいい…

触ると
起きる
かな…



少し
だけ…



少し
だけ



——私ね
リヴァイが
いいんだ



だからさ

君的にも
美味しいだろう？
手近に発散できる
相手がいるってさ



でもいきなり
そんなこと
言われても
困るよね

私はそれほど
女として
上等な部類だとは
言えないし



私のこと
いつでも

好きにして
いいからさ

君がいい

なんでも
してあげる



君が
相手をしてくれると
とても助かるんだ

君がいい



君のものに
なるから

君のものに
なりたいから



考えて
おいてよ

私が生きてる
間はさ

それにね
リヴァイ

君も
知ることになる

だから

もう何回か
壁の外に出れば



報告書？
提出するのかい

リヴァイ

ああ



……なんでも

はっきり
言え

えーっと

あー



じいっ

なんだ？

このスベル
間違ってるよ

前回の報告書も
間違ってたから
覚え間違いかな

前回だ？





え、いやー
前スベルミス
指摘したら
「男のプライドがー!!!」って
キレた奴がいてさ



七、
そういうことは
はやく言え



十四ヶ所!!!だ

14?

まあ、それは
二十ヶ所くらい
間違えてたん
だけどね



あはっ



最悪だな
ゲルガー

あら、あんたの
報告書だって
字が汚くて
読めたもんじや
ないわよ?



直した後も
六ヶ所間違いが
あったよ

ははは



オイ他に
なにかあるか？

な!!!

フーン

え？他？
ああ特にはないよ
いいと思う

完璧な報告書
たったひとつの
スペルミス



完璧だよ



私みたいに
長くもない



可愛いなって
思ってたん
だけど

ミケみたいにも
ホエムっぽくも
ないし

ナナバみたいにも
短すぎて
そっけなくもないし



—？
お前の報告書は
三枚くらいだろ
長いかな？



いや、
清書の前は
十倍くらい
あってさ

三十枚？
なにをそんなに
書くんだよ!!!

え？いや
細々としたことを
つらつらと…



奇行種の行動にも
ある程度の規則性が
あるんじゃないかと
思ってます

それについての検証や
通常種の体力差とか
サイズとか容姿とか
色々書いてると
つい…ね

さすがに
長いから
割愛して

報告書とは
別にまとめて
あるんだよ



いつか役に
立つかもしれないと
思ってます

いつかって
いつよ

まあ
後進の
ためにね

お前より
頭のいい奴が
入団してくるか？

可能性が
ないわけじゃ
ないだろ？

絶望は
死に至る病

いつなにか
役に立つかなんて
誰にもわからない

だから私は
考え続ける

冷たくなる
その日まで

努力を
惜しむつもりは
ないよ

だって

調査兵団は
続いて行くんだもの

— そうだな

— あら
なんかしんみり
したわね

あー
ごめん

自分の
不甲斐なさが
辛い…

ぼーっと
酒でも
飲みてえな…



金ある？

ないよ
本代に
消えた

あ、あんたは
あんまり金使って
ないわよね

私達みたいにし
飲み歩かないし

娼館にも
行かない

掃除用具以外
買ってないって
噂に聞いたわよ

俺は先月の
支払いがまだ…

出しなさいよ
ホモとか不能って
噂してるやつら
しめといてあげるから

ナナバ…

ああ、あと
エルヴィンに
ケツ差し出して
ここに入ったって
噂とかも

ちよっ
エルヴィンまで
ホモ扱って？
ひどい

ま…

潔癖だから
商売女は
嫌なんでしょ？

—





今日の酒のさかなは
その話にする？



するする



楽しいねえ
リヴァイ



でも
壁の外に
出れば

このうちの
何人かは
いなくなる



すべての
感情が



絶望に
染まる





つけこんだ



いらっしやい



君がどんなに強くても

己の無力さに打ちのめされる

君が欲しかったから



おいでよ

言ったとおり私を好きにしていいからさ

ほら

ひどい女だね



リ…
リヴァアイ

でも私は
君がいい



あッ!!



う…あッ

あ

ハッ



ああ!!

リヴァアイ

リヴァアイがいい

ああッ!!!





リヴァイが
来てくれないと



私は
完全に



壊れて
しまいそうだよ





あまり
触るな

いいじゃないか
生殖器
いじってるわけじゃ
ないんだからさ



リヴァイの背中
あたたかい

筋肉量の
せいだね



ふふ...



あ...



なに？

そんなに
嫌だった

ほんとに
元氣だね
リヴァイ

触るな



いいじゃないか
少しくらい

いつまでも
かたくなだね
君は

黙れ



じゅわ

あ



う…

あ…

最近思うんだ

君が私に
飽きる前に

私が冷たく
なるのなら

それはそれで
幸せな結末なんじゃ
ないかってね

私にはそれ以外
なにもないから



なにも

なにも

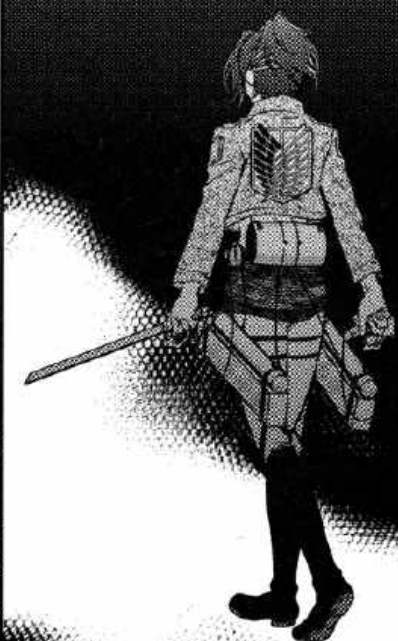


軽——い？



待って!!

消えないで!!!



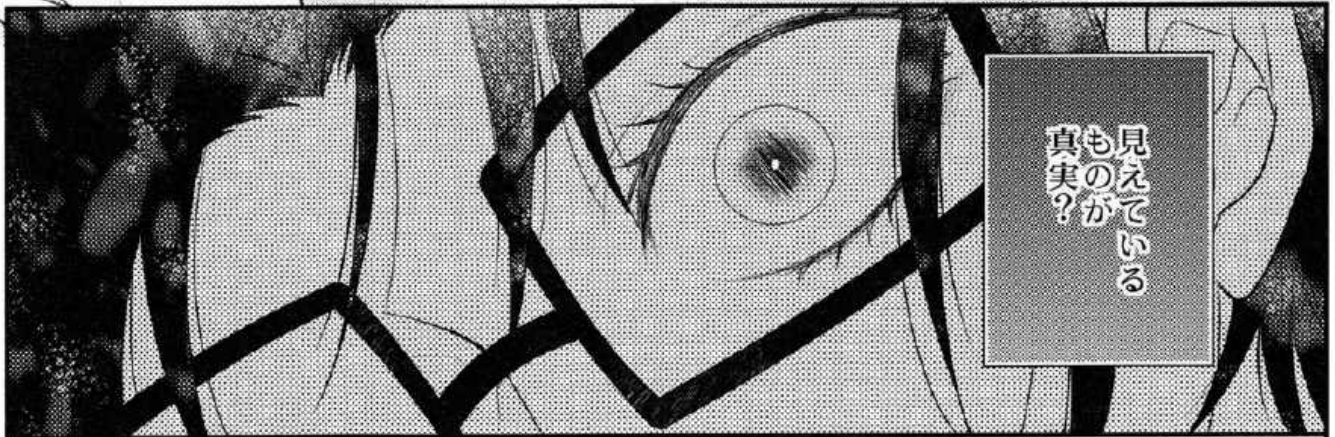


あ……

軽かった

あきらかに
質量と
重量が
つりあわない

おかし
かし
しい



見えている
ものが
真実？



本質は？

真実
は？

そんなこと
どの報告書にも
書いてなかった

考えなくちゃ
考えなくちゃ

知るためには
何をすればいい？
どうすればいい？



考えなくちゃ



考えなくちゃ



ああでも
情報がない



前に出過ぎだ
死にてえのか

足りないだけじゃ
見られない



決定的に

オイ!!!

もっと
間近で



捕獲
できれば…



そのためには
どうすれば

考えなくちゃ



知ることが
できたなら…

なにか
残せるかも



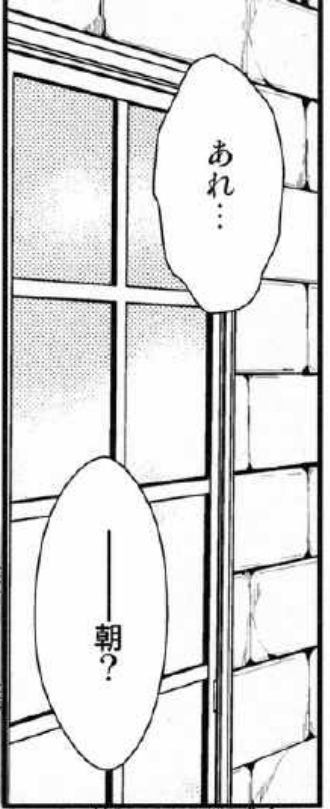
考えなくちゃ

私が
冷えて消える
その前に





壁外から帰って来た日なのリヴァイは来なかった



他に誰かを見つけたのかな

考えていれば
一人でも
歩いて行ける

考えていれば

考えて……

は……はは

なんで……?

こんな……





これ：
書き上げたら
リヴァイの部屋に
行ってみようか

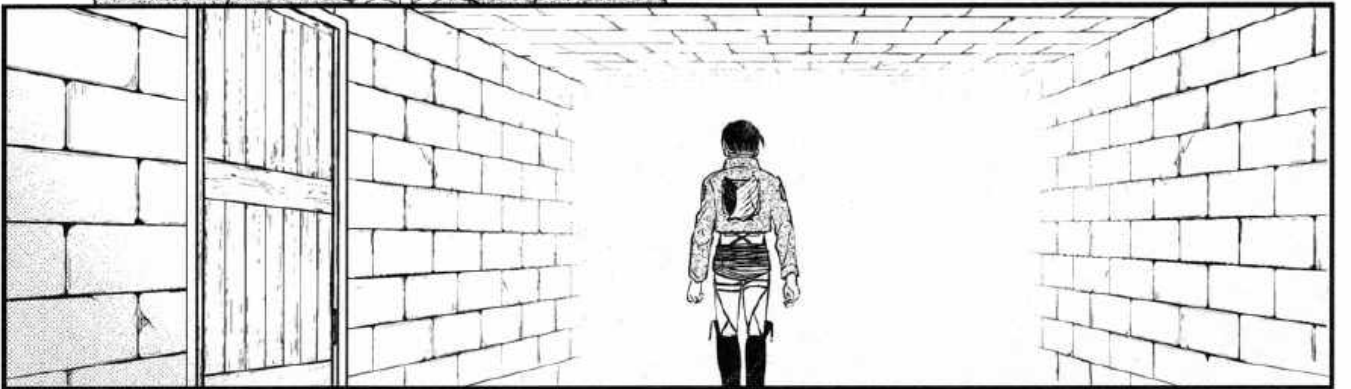
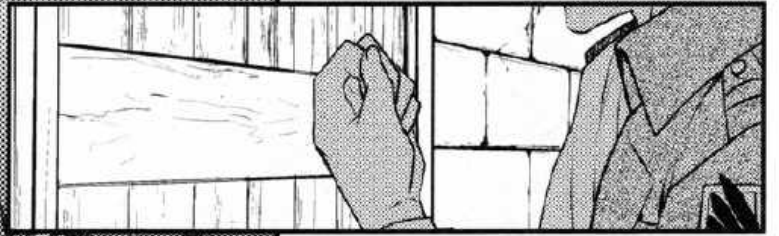
リヴァイは
優しいから
頼めば相手を
してくれるかも
しれない

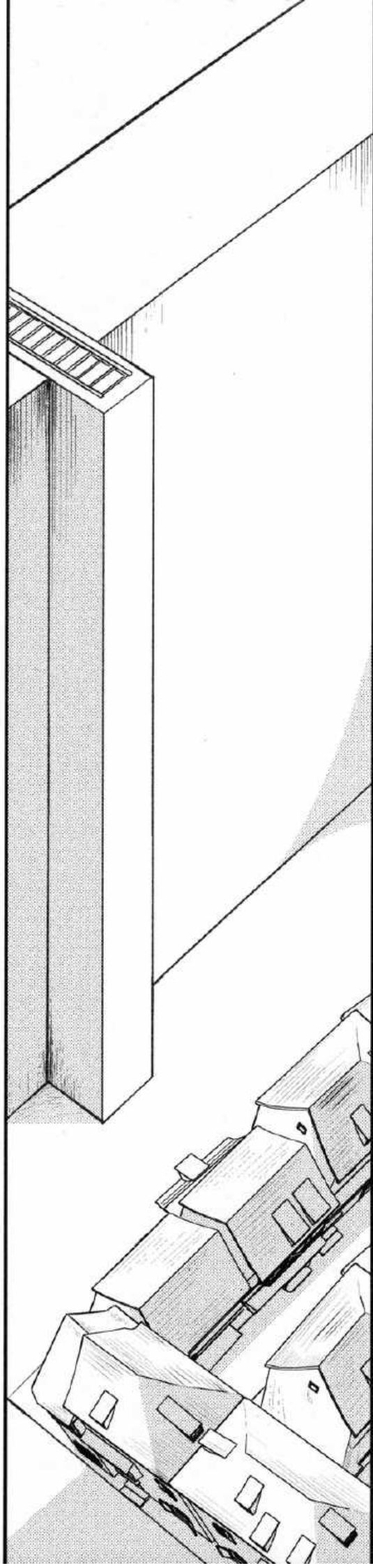


嫌がられたら
諦めもつく



考えることだけに
集中できる













……

なんだ



続いているのよね

間違いない

ハンジが
風呂に入った後
リウアイの匂いが
することがある



初回で乳首噛む
野獣君だよ

ニヤッ

ほう



後から入団して
私たちをあとという間に
追い越した兵士長様
だもの

股開く女なら
いくらでも
いるだろうに

……

何が言いたい



便所なら
他探しな



歩み寄る気が
ないなら
他探せってこと

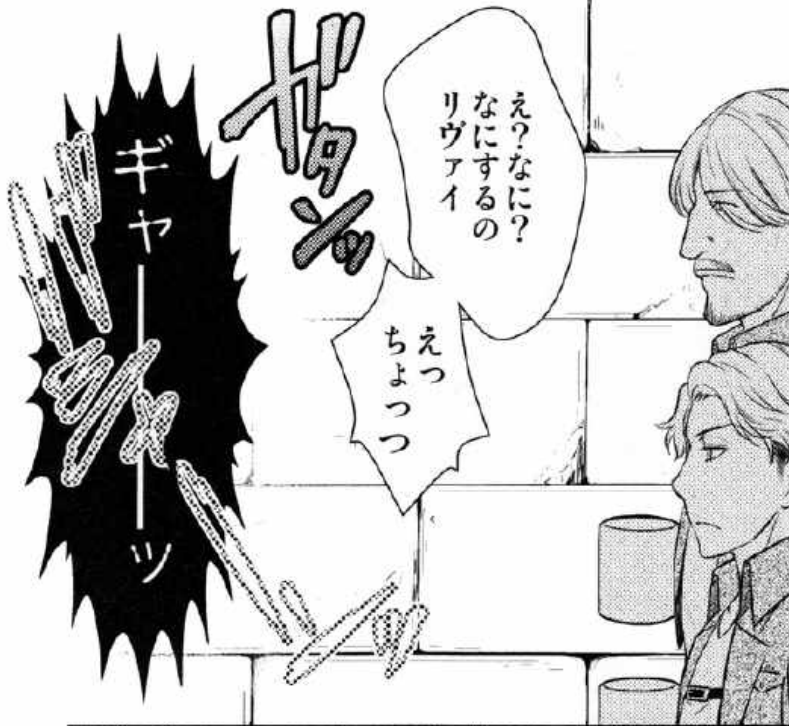
ハンジは
女としての自分に
自惚れたり
しないわよ

だからなんだ



ナ…ナバ…





すまん

いきなり
ひどいなあ
もう

せつかく考えが
まとまりそう
だったのに！

で？
するの？

脱
ぶんかっ

いや

ふーん

このコーヒー
美味しいね

ミケからだ

ふーん

……

ほんとに
しないの？

なぜ聞く

しつけれ



なにもしないのに
リヴァイが私の部屋に
来たのは今までで
一度だけだし

変だと思うのは
当然だろ？



そうだよ



……そうだな



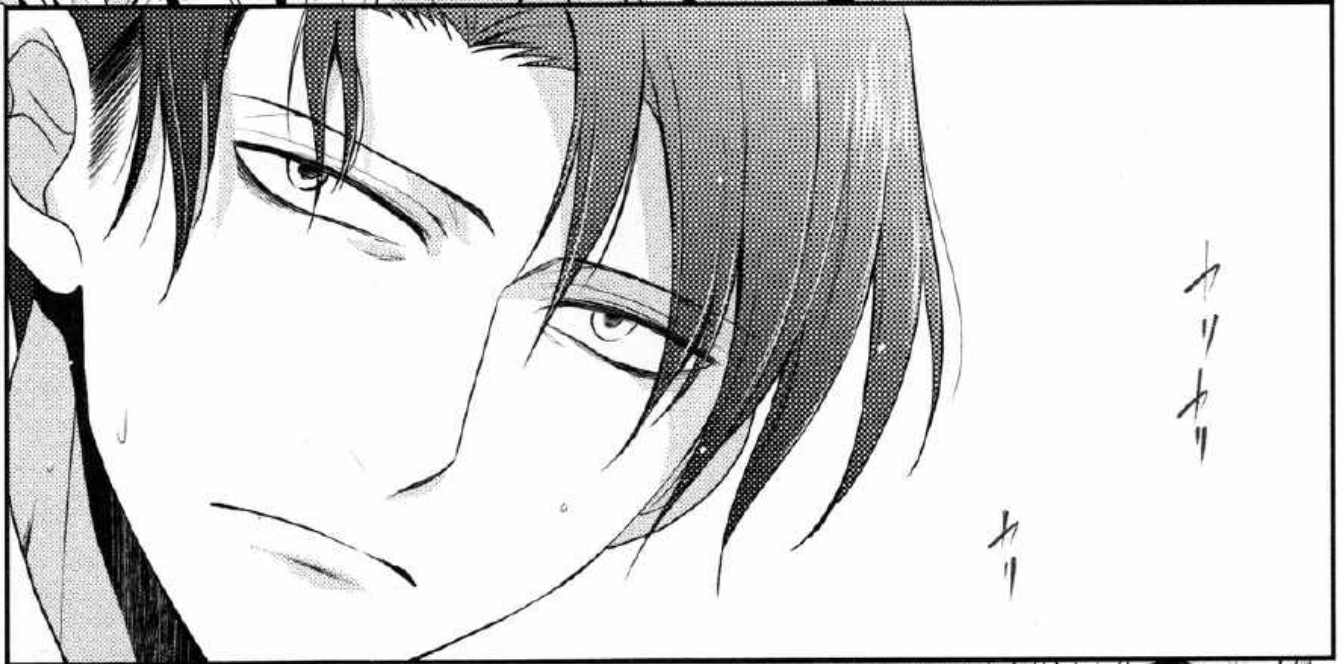
本当に変だね



俺にも
わからん

で、
なんなんだい？

ええー？



はっ…

あはは

ようこそ
調査兵団へ

ははははは

君が来るのを
ずっと待ってたよ

さあ
仲良くしようよ
いろいろ君と
話したいな

まずは君を
なんと呼べばいいかな
——ああ私が
名前をつけて
あげるよ

どんな名前が
いいかな



ゆっくり
おやすみ

明日からは
少し—

痛いからね



ああ…

もう
おねむの
時間かい？

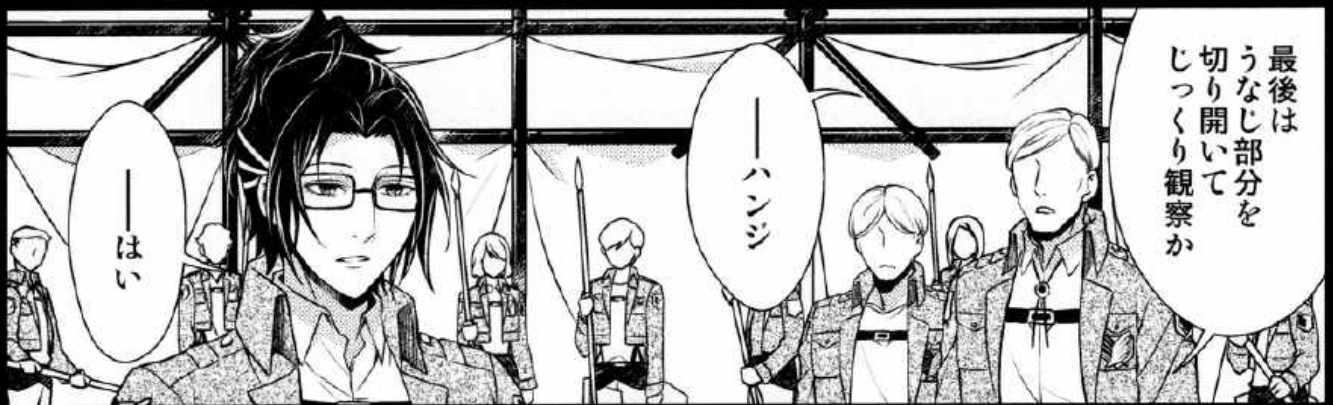


ああああああああ



ああああああ







ごめんね

ごめんね…

ごめんね



—なんで
謝るんだ？

巨人だぞ？

さあ



なぜ
あんなに
泣くんだよ

あの人

変だろ

あれだけの
犠牲を払って



たった
これだけの
成果



うん…
あ…

そうだよ…
ね…



リ…ヴァイ？
どうして



あ…ああ
ノックはした
てめえちゃんと
鍵閉める



—
しに
来たのかい？



大丈夫か
オイ—
—だ、大丈夫
大丈夫だよ



——お前は
どうしたいんだ

ハンジ

私はリヴァイが
したいなら
いいよ？

……めえが
したいならな



い……

一緒に
眠りたい
……かな



なら寝ろ

……は……はは
だつて
あつたかいじゃ
ないか

そいつは何か
意味があるのか？

——そうか



あたたかい

……リヴァイ
君は

本当に
優しいね
ありがとう



大好きだよ
愛してる

とても
あたたかいよ



私、今
ちよっとおかしいね



もう
来ないで



情緒不安定って
やつだ

一人でおとなしく
寝るよ



今日は
帰ってよ
リヴァイ



断る

好きにしていると言ったのはお前だろう

……あは
そうだね

死ぬまでは俺のものになるとも言った

ああ
……うん

そうだね——

俺は死なない



お前を他の奴に
渡すつもりはねえ



は…はは
リヴァイそれ
定番の
アレみたいじゃないか…

まるで



—それって

は…



ん

ん

ん

おろ



死が二人をわかっまで



リヴァイ…

もしかして
照れてる？

黙れ



ん…

リ：リヴァイ
今日は
しないんじゃ
なかったの？

ねえ
リヴァイ…



お前を
抱きたい



リヴァイ
私

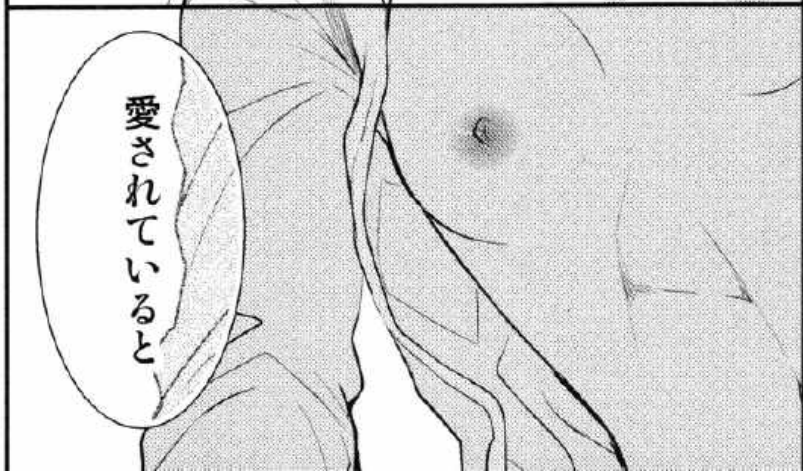
自惚れても
いいの？



ん

お前は
俺の
ものだ

あ



愛されていると



あつ

ああ

アッ

アッ

アッ



りっヴァイ

んっ



お前は俺のものだ

うん…

そうだよ
りっヴァイ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ



リヴァイ

私は君のものだよ



大好きだよ
リヴァイ

愛してる



あっ

ああ



ん、あ

リ…ヴァイ

リ…ヴァイ

あっ

大好き…

ん…あッ

…ハンジ

ハンジ



あ

ハムッ...

アッ

アッ



アッ

アッ

ああっ

あ...っ



ああっ!!!

アッ

アッ アッ

アッ



ん…

キヤッ

ふあ

あつ

キョアッ

アツアツ

キヤッ

ンツあ

キヤッ

リヴァイ
……？

あつ!!!

キヤッ







あああ
あああ
あああ
あああ

びびり
びびり

びびり



う

そんなに
弄らないで

あ…
リリ…
リウアイ



私
おかしく
なっちゃうよ

ん…っ

お前は
もとから
おかしい

や…
そうだけど
でも…



俺だけ
見てる

う…ん

俺だけ
感じてろ

う…ん

あ…

ああ…



リ…ウアイ

あ…
ん

もう許して…

だめだ



気を使って
くれるなら
他を——

まず
起こしてよ
リヴァイ!!

すみません
遅れて

遅すぎる
!!!

…ハンジ?

ひどい顔だぞ

え?

入れ込み過ぎじゃないのか?

もう少し
冷静に
なりなさい

なんだあれ
ずっと
泣いていたのか?

巨人が
死んだから…?

すみません…

まずい
ちゃんとか
言わないと…



一朝一夕に
いくものではないよ

それに
最終判断を
下したのは私だ

いいね？
ハンジ

……はい



あんなに
犠牲を払った
のに

たいした成果が
出なくて…

その…
すみません



ああ
だから…



そうか…
確かに…
犠牲が…





ア
ン
ア
ン

あいつ
朝の訓練
普通にこなして
いたわよ?

なによそれ
人類最強?



あ…朝まで
リヴァイが
離してくれなくて



その…
けっこう

愛されて…る
みたいだし



ハンジ、それ
大丈夫なの?
いいように
されてるんじゃない?

違うよ!!



ふうん

あら
そう



…もしかして
部屋で黙って
座ってたの……
それ？

はあ？
なにそれ

人類最弱!!!

ニヤッ



歩み寄って
来たんだ
煽ったかいが
あったかしらね

え？
歩み寄って
え？

なによ

え……と



やっとな
他人のことも
気になるように
なった？

い、いつ？
聞いてないよ？

あ……
そりやそうか



まあいいわ
あんたも
欲しいもの
手に入ったんでしょ

うん……
——って
「あんたも」!!?



ほんとに...ね



らー

なによ

うーん



案外私欲深い人間
だったんだなーって

!

今考えて
みれば

ハンジが俺のことを
どう思ってるか
あまり気にしたことは
なかったな

ハンジの周りのもの
一つにすぎないと









私、
考えたんだ

もし、仮に
仮にだよ？

私の方が
後に残されたら
どうしようって

あ？



まだ夜だ
もう少し
寝てる

リヴァイっ
あのね!!!



そしたら
きつとすごく
後悔する

だからだからね
欲しいんだよ

私への気持ち

リヴァイの声で
ちゃんと言葉にして
欲しいんだ



言葉にして
くれたら
あげる――

もちろん
ただでは
言わないよ？



君が
いなくなった
後の私も
全部あげる

私はずっと
君が――

貴方だけが
欲しかったから——



だから——





リ
リ
ヴァイ

その…

だめかな？

…



本当だな？

言葉にして
くれたら

一人になっても
一人のまま
歩いて行ける

君の待つ
場所に



そう思うから



ハンジ
俺はお前を

愛している

俺もお前だけ
いれればいい——



羽ばたいたいた後も

Attack on Titan unofficial fanbook no.09

MAMIYA[RIX] PRESENTS
2014.5.4

WEB ; <http://rix.vv.cx>
MAIL ; m@rix.vv.cx
PIXIV ID = 464880

print ;ねこのしっぽ

※ 無断転載 複製 ネットオークション出品はご遠慮ください※

LevixZoeHans

Attack on Titan
unoffical fanbook no.9

MAMIYA
[RIX] PRESENTS
2014.5.4

